

令和六年三月二日(土)、高校卒業式が盛大に挙行され、この日、三六二名に及ぶ卒業生の皆さんが本校を巣立って行きました。

この青学年の皆さんは、大変なコロナ禍のなか高校に入學し、いわゆる「リモート授業」や「黙食」等を日々こなしてきました。また、一年次の「山の教室」が二度まで延期されたり、二年次の「アメリカ修学旅行」が北海道に変更さ



れた(北海道は北海道で楽しんでいました)と、全国的な感染症の蔓延にとりわけ悩まされた学年でした。ですが、この高校卒業式へは保護者の方々にもご参列いただくことが可能となり、以前と同様の、賑々しい高校卒業式を執り行うことができました。

卒業式のメインは、何と言っても、「卒業証書授与」です。クラス担任の「呼名」に応じ、卒業生が一人ひとり起立しま

す。感極まって呼名できない担任も現れるなど、感動的な卒業式となりました。退場の際には、クラスごとに工夫を凝らしたパフォーマンスが行われ、参列者の涙と笑いを誘っていました。

加えて、当日の午後は、卒業生有志が主体となって、「卒業を祝う会」が行われました。軽音楽部・吹奏楽部・ダンス部・バトン部の有志が演奏や演技を披露するとともに、教職員に花束を贈呈。最後は、クラスごとに撮影した「卒業記念DVD」の完成版を全員で視聴し、それぞれ楽しく有意義であった三年間を思い出していました。この日ばかりは、友人たちとの別れを惜しんで泣き合ったり、昔を懐かしんで笑い合ったりと、とにかく忙しい一日となりました。

卒業生の皆さん、改めてましてご卒業おめでとうございます。

高校卒業式



淑与中だより



芸術研究発表会

二月十六日(金)・十七日(土)の二日間に行われ、芸術研究発表会が行われました。例年どおり「創作研究」の発表と、土曜講座「リコーダー・書道の発表、家庭科・美術の授業で作成した優秀作品の展示に、今年は保護者だけでなく入学予定の新入生とご家族にもお越しいただくことができました。

また、今年から「創作研究」も形を変え、生徒たちが選んで読んだ「新書」の内容についてまとめ、その本のどこが面白かったのかを自分の言葉で伝えるというものになりました。自分の興味ある分野・異なる分野の計二冊の新書を読むことで興味関心の幅を広げることもできました。

来年度はさらに読みを深め、自分の考えたことや提案を加えたりして、進路探索にも繋げていく予定です。

中一校外学習 デイズニー 職業体験



令和五年十一月十七日(金)東京デイズニーランドに行ってきました。デイズニーと聞いて楽しみに待つ生徒たちに対して、「職業体験の一環として有意義な学びの時間にしよう」という目的のもと、事前学習ビデオを通して、キャストの方々がどのような思いでゲストを迎え入れようとしているのかを学び、準備を整えました。

当日は事前に決めた通り、午前は職業インタビューのための学習班、午後は行動班と分かれて学びと遊びのメリハリをもって行動をしました。午前は生憎の雨であつたため、生徒も教員も心配していましたが、生徒たちは雨にも負けず一生懸命にインタビューに取り組みました。午後は天候も回復し、帰りのバスではみんな満足そうな表情を浮かべているのが印象的でした。

中三 京都奈良明日香修学旅行



令和五年十一月十五日(水)・十七日(金)、奈良・京都への修学旅行に出かけました。コロナ禍前の修学旅行とほぼ変わらない充実した内容の宿泊行事ということで、生徒の皆さんは大変楽しみにしており、事前学習から力を入れこの修学旅行に臨んでいました。

奈良では、興福寺、東大寺の見学、「語り部の会」の先生の講演、班別行動による明日香散策、法隆寺の見学をしました。京都では、舞妓さんとの交流体験、知恩院で輪島



聞声先生のお墓参りをし、清水寺と付近の班別行動による自由散策を行い、最後に三十三間堂を見学して、帰途につきました。

雨の日もありましたが、晴天の日もあり、紅葉の美しい奈良・京都を満喫することができました。素敵な思い出をいっぱいつくりながら仲間との絆を深め、多くを学び得る修学旅行となりました。

※なお、令和五年度は中二の台湾研修も再開いたしました。

contents

- 新旧校長あいさつ…………… 2・3
- 人事…………… 2・3
- 主要大学合格状況(過去3年) …… 4
- 高1インターナショナルプログラム報告 …… 5
- 高1 英語学研修 …… 5
- 入学式…………… 6
- 中3 英語学研修 …… 6
- クラブ活動報告…………… 7
- 淑与中だより…………… 8

里見前校長、退任



平成十（一九九八）年四月の就任以来、実に二十六年間の長きにわたり、淑徳与野中学・高等学校の校長を勤めてこられた里見裕輔先生が、この三月をもってその職を退任されました。

今年度から先生は、引きつづき学園の理事としての立場は変わらず、一方で、淑徳与野中学・高等学校の「学監」という新たな役割につかれ、今後は本校の仏教情操教育の推進と、また、その監督にあたられることになります。

ところで、先生が校長を勤めたあの二十六年間は、本校の歴史にあつて、まさに変革と脱皮の時代であつたといつても、それは過言ではないでしょう。

たとえば平成十七（二〇〇五）

年。それまで中学校をもたなかつた本校は、駅に近く、通学の利便性にまさる現在の地（さいたま市中央区上落合）に、淑徳与野中学校を開校しましたが、これが本校の、新たな中・高六年一貫教育の始まりにほかなりません。

因みに、約一年の建築期間を経て竣工したこの中学校舎は、県が主催した、「第二十三回・彩の国景観賞」を受賞してマスコミに載るなど、思わぬ副産物を学校にもたらしてくれました。

平成二十七年――

中等部の開設から十年の歳月を要し、それまで円阿弥という、市の中心を外れ、遠隔の地にあつた淑徳与野高等学校の、移転、これがようやく実現し、今の建物が中学校に隣接して造られたのですが、これもまた、学校を永く後世に伝えるために必要な、過去からの脱皮といえるでしょう。



斑鳩の法隆寺にて

さて、学園には里見校長のこの時代を、埼玉における、与野地区再開発の第一期目と捉える考えもあるようですが、だとすれば、新校長を迎えて、学校は更に再開発の手をゆるめることなく、変化を恐れず、一層の発展を目指さなければならぬようです。

（取材編集・安東国子）

退職教職員

令和6年3月31日付

令和5年度をもってご退職される教職員の皆さんです。生徒への学習指導や進路指導のみならず、もろもろの委員会やクラブ活動といった、生徒の日々の学校生活の、いたるところでご尽力くださいました。なお、無田先生と堀江先生は、本年度より講師として勤務されています。



黒田新校長あいさつ

校長 黒田 貴

今年度よりこの歴史と伝統を誇る淑徳与野中学・高等学校の校長という大役を仰せつかりました黒田です。甚だ微力ではございますが、本校の充実と発展のために、専心努力する所存です。よろしくお願ひします。

私は静岡県に生まれ、静岡県立清水東高校を卒業後、静岡大学教育学部に入學、同大学院に進み国語教育を専攻しました。大学院修了後は三年間、増進会出版社（Z会）に勤務し、社会の荒波にもまわっています。

そしてご縁があり昭和六十三（一九八八）年、本校に赴任いたしました。



今でも忘れられないことは、この

学校に入職して初めて入学式に臨んだ時、そこはかとなく漂うお香の香りの清々しさと、体育館の正面におられます阿弥陀如来のお姿の美しさ、そしてきわめて厳粛な入学式そのものの雰囲気です。この時、「この学校で生徒のため

に頑張るぞ!」と改めて思った

もので、今でも入学式に臨むとその思いを改めて感じます。まさに「初心」そのものです。

入職して以来三十五年教員として努力いたしました。が、仏教に関しては浅学の身で、仏教行事の差配などは到底できるものではありません。こうしたことは学監先生のご指導を仰ぎながら努めていく所存です。

若い頃から宮澤賢治の文学が好きで、「宮澤文学をいかに教室に持ち込むか」というテーマで論文を発表したこともあります。賢治は言うまでもなく仏教に深く傾倒し、彼の著作にはその影響が色濃く反映しています。そして、その作品のスケールの壮大さ、宇宙観、

自然との融合や人に対する優しさなど、現代においてもまったく古さを感じさせません。

彼はあくまで花巻で農業を営む人達とともに生き、自らの手を土で汚しながら生きた人でした。

春

陽が照って鳥が啼き

あちこちの橘の木の林も

けむるとき

ぎらぎらと鳴る汚い手を

おはこれからもつことになる

『春と修羅 第三集』

作品第七〇九番

私もまた現場で汗をかきながら、学校のために尽力していく所存です。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

新任紹介

令和6年4月1日付

内田祐理菜 先生
（体育科）

菅 光晴 先生
（英語科）

重田樹音 先生
（国語科）

重岡なつみ さん
（事務部）

杉田和之 さん
（事務部）

石川祐貴 さん
（事務部）

※重岡さんと杉田さんは令和5年10月から、石川さんは令和6年6月から本校に勤務されます。

加藤広彦 さん

（事務部）



村上未祐 先生

（理科）



堀江さやか 先生

（国語科）



無田京子 先生

（英語科）



石川昌子 先生

（英語科）



矢吹 誠 先生

（数学科）



川崎容子 先生

（国語科）





一月中旬より四月一日(月)まで
高校一年生(現高校二年生)の十四
名がアメリカ、五名がカナダ、
十二名がニュージーランドでのイ
ンターナショナルプログラムに参
加しました。アメリカ・シアトル
とニュージーランドでは現地校へ、
アメリカ・サンディエゴとカナダ
では語学学校に通い、英語力を高
めました。

高一インターナショナルプログラム報告

を発前は、英語でのコミュニケ
ーションや現地での生活に不安を
抱えていましたが、ホストファミ
リーとの会話、学校での学習など
を通して、リスニング力や会話力



を大幅に向上させ、現地での生活
を満喫したようです。
ホストファミリーとは映画を見
たり、ゲームをしたり、大学生の
ホストシスターに大学を案内して
もらったりしました。中には、パ
イロットインストラクターのホス
トシスターに二人乗りの小さい飛
行機に乗せてもらった人がいたよ
うです。

学校では、既に淑徳与野で学習
していた代数の知識を生かし、先生
の手伝いをして、友人に教える立場
になった生徒もいました。数学を
英語で説明することで、英語力を
さらに磨くことができました。

現地には、他国からの留学生も
いたので、その国だけでなく、様々
な文化や考え方を学び、大きく
成長して帰国しました。今後の
活躍が楽しみです。

曇り空から小雨が降り出し、慌
てて傘を差すとほんの数分で止ん
でしまい、そのまた数分後には晴
れ間も出てくる…。生徒たちは、
イギリスの典型的な天気を、初め
は驚き煩わしく思っていました。
しかし、オックスフォード、バー
ス、ストラッドフォード、ウエス
トミンスター大聖堂やウースター
大聖堂など各所を訪れている内に
いつの間にか、多少の雨はフード
を被ってやり過ごすようになって
いました。



一週目は、地元の名門女子校の
授業や終業式に参加し、寮を訪
れ現地の中高生と交流しました。
二週目は毎日英語のレッスンを受
け、各家庭ではイースターの伝統
行事や英国の家族団欒を体験する
ことができました。お別れパーテ
ィーでは、日本文化やすばらしい
歌声を披露し、各々がファミリー
や先生方に上達した英語で感謝の
辞を述べ、大盛況のうちに終わり

ました。
最終日のロンドンではイースター
ホリデーの最中で、世界各地から
大勢の観光客が訪れ、また、イス
ラエル・パレスチナ紛争に対する
大規模な抗議デモもあり大変な混
雑でした。
歴史や伝統を大切に受け継ぐ心
やホストファミリーの優しさ温か
さに触れ、理解し合えた喜びを感
じるとともに、様々な価値観を持
った人々との共存について考える
機会もあり、生徒たちは大いに成
長できた研修となりました。

主要大学合格状況 (過去4年)

国・公立大学				
学校名	2024年	2023年	2022年	2021年
北海道大学	4		1	
東北大学		1		3
東京大学	1 (1)			
大阪大学	1	1		1
名古屋大学			1	
九州大学	1	1 (1)		
筑波大学	2	3	3 (1)	3
お茶の水女子大学	2	2	2	1
一橋大学	1			2
東京医科歯科大学	1	1	1	
東京外国語大学		1	3	3
東京農工大学	2	4	3 (1)	2
東京海洋大学	1 (1)	3	3	2
東京学芸大学	2	2	1	1
電気通信大学				1
宇都宮大学	1		2	1
群馬大学	1	1	4 (1)	1
千葉大学	1	5	3	5
埼玉大学	7	5	8	7
横浜国立大学	1		1	2
高崎経済大学	1		1	3
横浜市立大学		1	2	1
東京都立大学	1	6	1	1
埼玉県立大学	3	5	1	1
防衛医科大学校	3	4	1	
航空保安大学校	1			
防衛大学校	4	2		2
国立看護大学校	2		1	
その他	8 (1)	6	5	10 (1)
合計	52 (3)	54 (1)	48 (3)	53 (1)

※旧帝大・関東圏内の大学のみの表示となっています。

過去4年間の進学率

学校名	2024年	2023年	2022年	2021年
卒業生総数	362	357	405	346
4年制大学	96.1%	96.6%	96.5%	96.8%
短期大学等	0.0%	0.0%	0.5%	0.3%
合計	96.1%	96.6%	97.0%	97.1%

2024年4月8日現在。()内は過年度生。

私立大学				
学校名	2024年	2023年	2022年	2021年
早稲田大学	49 (1)	47	65	55
慶應義塾大学	15	5	21 (1)	16
上智大学	62 (3)	60	46	81
東京理科大学	35	42	31 (1)	34
合計	161 (4)	154	163 (2)	186
明治大学	91 (1)	80 (4)	103 (2)	73
立教大学	120 (3)	138 (5)	147 (3)	126
青山学院大学	24 (1)	31	27	22
学習院大学	36 (2)	29	55	29
中央大学	43	35 (2)	38 (1)	56 (2)
法政大学	50 (1)	58 (4)	54 (2)	42 (1)
合計	364 (8)	371 (15)	424 (8)	348 (3)
津田塾大学	21 (2)	25 (2)	18	21 (1)
東京女子大学	68 (1)	49 (2)	64 (1)	95 (1)
日本女子大学	102 (2)	123 (1)	157 (1)	117 (1)
合計	191 (5)	197 (5)	239 (2)	233 (3)
獨協大学	28	18 (1)	27 (1)	15
成蹊大学	13	8 (1)	18	12 (1)
成城大学	21 (1)	20 (5)	21	16
東洋大学	48 (3)	31 (2)	63 (1)	46
日本大学	17 (4)	38	39 (1)	24 (2)
合計	127 (8)	77 (9)	168 (3)	115 (3)

医・薬・歯・獣医学部合格状況

学部名	2024年	2023年	2022年	2021年
医学部	9 (2)	16 (1)	28 (9)	18 (9)
富山大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、北里大学、杏林大学、帝京大学、日本医科大学(等)				
薬学部	44 (4)	43	54 (1)	49 (5)
慶應義塾大学、東京理科大学、星薬科大学、明治薬科大学、昭和薬科大学、順天堂大学(等)				
歯学部	2	3	4 (4)	2 (1)
昭和大学、東京歯科大学				
獣医学部	6 (1)		5	
酪農学園大学、日本大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学、岡山理科大学				



中学バトン部は三月二十六日(火)に行われたUSA School & College Nationals 2024—全国選手権大会—に出場しました。GRACEは中学校編成Song/Pom部門 Small A 第四位、GRACE LUCIDAは中学校編成Song/Pom部門 Large 第七位となりました。また、GRACE LUCIDAは特別賞である「ベストインプレッション賞」を受賞しました。

中学バトン部
「全国大会」出場



高校卓球部は、一月二十九日(月)～三十一日(水)に行われた、令和五年度高校卓球新人大会南部支部予選会に出場しました。シングルスでは三橋佑果子さん(高校二年八組)がベスト8、団体でもベスト8に進出し、いずれも県大会出場を決めました。

高校卓球部
「県大会」出場



高校バトン部は三月二十五日(月)に行われたUSA School & College Nationals 2024—全国選手権大会—に出場しました。BLAZEは高校編成Song/Pom部門Small Bにおいて、五位を獲得しました。

高校バトン部
「全国大会」出場

高校吹奏楽部は令和五年十一月二十四日(金)に行われた、埼玉県アンサンブルコンテスト地区大会において木管八重奏、弦打楽器四重奏の二団体どちらも銀賞を収めました。

また中学吹奏楽部、高校吹奏楽部合同で三月三十一日(日)に定期演奏会を開催しました。当日は好天にも恵まれ、多くの来場者が訪れました。前年好評だった会場投票による演奏曲決定の企画や、曲にちなんだ寸劇などが行われ、大変盛り上がった演奏会となりました。

高校吹奏楽部
アンサンブルコンテスト「銀賞」受賞
中高吹奏楽部合同
「定期演奏会」開催



中学吹奏楽部木管八重奏のメンバーは令和五年十一月八日(水)に行われた埼玉県吹奏楽連盟ならび朝日新聞社主催の第四十七回埼玉県アンサンブルコンテスト中学生地区大会において金賞を受賞し、県大会への出場を決めました。令和五年十二月十六日(土)に行われた県大会では、銀賞を受賞しました。

中学吹奏楽部
アンサンブルコンテスト「金賞」受賞
「県大会」出場

中学・高校入学式



4月9日(火)、午前に高等学校、午後に中学校の入学式が挙行されました。高校は318名、中学校は174名の新入生を迎え、保護者の方も制限なくお招きした中で式を行うことができました。春の嵐ともいえるあいにくの天気ではありましたが、真新しい制服に身を包んだ新入生の姿は眩しく、少しの不安と大きな期待に満ちた表情をうかがうことができました。

入学式には、本校の姉妹校であり、高校2年次実施のアメリカ修学旅行でも交流をするBlanchet Catholic Schoolのスミス校長先生ご夫妻がお越しください、新入生へ激励の言葉をかけてくださいました。その後、式の中で代表生徒の「誓いの言葉」を聞いた新入生たちは、表情を引き締め、これからの学校生活への意欲を高めていました。

中三 英語学研修



三月二十日(水)～四月二日(火)の日程で中三 英語学研修が実施されました。

十四時間を超えるフライトとバスの移動を経て、ようやく研修の地チェルトナムに着いたのは現地時間の夜でした。面会式でホストファミリーに会うと、長旅の疲れもどこかに吹き飛んだかのような笑顔を見せていました。研修ではコッツウォルズの村、ロンドン、ダロスター、ストラットフォード、オックスフォードなどを訪れました。

初めてイギリスを訪れる生徒がほとんどで、日本とはまた異なる美しい街並みに目を輝かせていました。英語のレッスンは、オールイングリッシュの授業に戸惑いつつも、それすらも楽しみながら取り組みました。レッスンと並行して、現地生徒との交流、スコーンづくり、ドラマ(演劇)授業など普段なかなかできない貴重な経験をすることもできました。

研修最終日の朝、ホストファミリーと別れる際には多くの生徒が涙を流しながら感謝を伝えていました。英語や異文化を学ぶだけでなく、この研修を支えてくれた多くの人の温かさ感謝し、今後より一層の努力を誓ったとても充実した研修となりました。

